

「製造技術分野プロジェクト」推進戦略について

新日本製鐵株式會社常務取締役
平尾 隆

推進戦略の視点に関して

- ・ 3項目に分類されている事に加えて、横軸に次の視点での位置付けが必要ではないか。
 - ・ 高い国際競争力で外で稼ぐ分野
 - ・ それらの競争力を強化する上で支えていく分野
 - ・ そういう活動が安定して持続発展できる土壌を構築する分野今後の議論で更なる視点軸が生じるでしょうが。
- ・ 我が国が今後も競争力を維持していく為には、技術を点ではなく面で捉える視点が必要。
製造は
素材 - 加工 - 組み立て - 制御 - 市場 - 満足 - (新たな欲求) という連鎖の上にある。
特に、素材と加工の連携(加工に適合する素材の開発)は重要。前回会議で申しあげた。
部分を良いところ取りで技術移転すると空洞化の連鎖で全体の競争力が確保できない。
技能の技術化を超えた一貫での付加価値向上を図る技術の展開が必要。
- ・ 知的基盤の整備は「施策のあり方、推進方策」の対象ではなく、重点領域に位置付けるべき事項ではないか。
- ・ 製造技術の定義として、「加工」に限定するのではなく、「工法」まで広げて認識することが必要ではないか。

重点領域の設定に関して

- ・ 既存製造技術の各アイテムは以下のように理解してよいか。
 - 1 - 1 ; 到達する目標レベルの問題
 - 1 - 2 ; 到達した技術の精度維持の問題
 - 1 - 3 ; 到達した技術をハンドフリーで実現する問題(人手による外乱の排除)
- ・ 1 - 1 に加えたい事項
製造加工環境の自在制御技術(例; 狙う温度、真空度、などを即時実現しうる技術)
- ・ 1 - 2 に加えたい事項
状況を診断する技術(ITの高度利用による管理技術に入るかもしれない)
- ・ 1 - 3 に加えたい技術
「快適な接触」環境を実現する技術
- ・ 新規領域開拓の中に「社会インフラの機能向上」を加える必要がある。
「機能向上」とは、短工期、メンテフリー、易解体、循環性、などの概念。

検討方法、論点に関して

- ・ 国策として実行するに当たっては、モデルプラントへの集中投入により新たな新領域を
発掘していくような展開が必要ではないか。
- ・ 経済合理性だけでは自然体で進まない課題の省庁横断的取り組みによる早期始動が重要。

以上